

平成 25 年度 租税教育に関する研究発表要項

山元町立山下中学校

講師 太田 侑吾

1 研究主題

租税への興味・関心を深化させる指導の工夫
～山元町の復興に関する取り組みを通して～

2 主題設定の理由

2011年3月11日の東日本大震災で、山元町も甚大な被害を受けた。町の約半分が浸水し、多くの家屋が流され、たくさんの町民がしばらくの間、明日の生活もままならない状態が続いた。そんな大震災から2年半ばかりが経ち、比較的町の様子や町民の方々の生活も落ち着いてきたように感じる。しかし、未だ舗装されない道路、震災で外灯が破損した暗い通学路、仮設住宅での生活、万全でない交通面などから町外に移転することを余儀なくされた家庭など、震災の爪痕は大きく、被災した本校の生徒の生活への影響も甚大である。

自分たちの育った山元町が傷ついていく光景を目の当たりにした子どもたちは、山元町がこれから復興へと向かうための大切な原動力でもある。

そこで、本研究では山元町が震災以降抱える、町の人口の流出等の課題を提示し、町の復興の為には「税金をどのように使えば良いのか」という事を考えさせることを通じて、税に興味・関心を持たせるとともに自分たちの育った場所を愛する心や、自分たちが復興へ取り組む上でも大切な人材となっていく、という意識を高めさせる有効な方法として、この主題を設定した。

3 研究目標

身近な資料の活用等を通して、税金への関心を高める指導法を探る。

4 研究仮説

- ・町の予算案など身近な資料を使って指導を進めていけば、税金に対する興味・関心が高まると同時に、町の実態や課題について考えることが出来るであろう。
- ・自分の住んでいる町について、じっくり考える活動を取り入れることによって、これからの町づくりについて自分の意見を持つことが出来るであろう。

5 研究の方法

- (1) 山元町の税の用途に対する事前調査を行い、実態を把握する。
- (2) 広報誌「やまもと」に記載されている平成25年度の山元町予算案を調べ、震災後の山元町の課題を含めた実態について理解させる。
- (3) 町の実態や抱える課題を踏まえて、それらの解決・改善のために限られた予算を自分ならどのように使っていくのか考え、まとめさせる。
- (4) 生徒の変容の実態を把握するために事後調査を実施する。

6 研究の計画

- 7月 5日 (金) 租税教室実施 (本校3学年 95名)
8月22日 (木) 租税教室座談会 (於:名取市役所)
10月第3週 事前調査・実践授業
実践授業1「山元町の実態・課題を知ろう」
実践授業2「山元町のお金の使い道を考えよう」
実践授業3 まとめ
10月第5週 事後調査

7 研究の概要

(1) 山元町の実態についての意識調査(本校3学年 90人回答)

- 1 震災以降、山元町の人口はどのくらい減ったと思いますか？

大きく減った…36人 それなりに減った…46人
あまり減っていない…0人 ほとんど変わっていない…1人

- 2 震災前に比べて、山元町に町民が納めている税金はどう変わったと思いますか？

大きく減った…22人 減った…35人
あまり変わらない…6人 ほぼ変わらない…20人

- 3 2の質問について、なぜそう思ったのか理由を書いてください

大きく減った・減った

- ・町の人口が減ったから (大多数の回答)
- ・町の多くの人々が被災し、お金がなくなったから
- ・不景気だから
- ・わからない

あまり変わらない・ほぼ変わらない

- ・人が納めなければならない税金は変わらないから (大多数の回答)
- ・被災地だからといって、税金を減らすのは平等ではないから。
- ・税金を減らすと復興が遅れるから
- ・山元町の税金の実態をよく知らないから
- ・わからない

4 今の山元町は、税金（予算）をどのように使った方が良いと思いますか。（1人3つまで回答可）

- ・災害公営住宅や集団移転…53人
- ・瓦礫処理や除染作業…57人
- ・被災した児童・生徒への支援…38人
- ・農業・漁業の整備…34人
- ・体育館や図書館などの建設…16人
- ・大型ショッピングモールなどお店の建設…10人

事前調査の考察

質問1について、山元町の人口が減っている（震災前に比べて約20%減）という認識はほぼ全ての生徒が持っていた。これは被災している生徒が多いことや、本校から震災の関係で転出した生徒がいたり、卒業後引っ越すことが決定している家庭があったりといったことから、このような結果に結びついたと考えられる。

質問2については、多くの生徒が人口の減少と町の税収の減少を関連づけて考えることが出来ていたが、生徒の約25%が、「人口の減少と税収は関係ない」という認識であった。質問3で挙げられた理由としては、復興で多くのお金がかかるので、人口が減ろうが税金は集めなければならないというものも多くあった。今後の実践授業で町の課題について考えていく上で、人口の減少と税収を関連づけていけるよう、工夫して指導したい。

質問4の結果では、生徒が復興を進めるということについてどのような考えを持っているか知ることが出来た。「農業・漁業の整備」も多くの生徒が重要視していた。これは町の特産物（いちご、りんご、ほっき等）を町外に売り出していく面と、家が農家の生徒にとっては生活に大きく影響する面などが、挙げられた理由として考えられる。

一方で、一部の生徒は大型ショッピングモールや体育館など、生活の利便性を優先する考えの生徒も見られたので、実践授業後の変容に注目したい。

この事前調査の結果から、多くの生徒たちは税に対する関心は高く、山元町の税収の実態や復興についてもおおよそ自分の考えを持っていると言える。今後の実践授業では生徒が今持っている考えや意見を尊重しながら、予算のあらましなど具体的な資料を読み取らせ、更に考えを深めてさせていきたい。

(2)実践授業1「山元町の実態・課題を知ろう」

・平成25年度の山元町の予算はいくらだと思うか

↳（生徒の反応）・2500万円、3億円、10億円…etc

↳（説明）実際は約560億円

↳（生徒の反応）・復興ってそんなにお金かかるの？

・このような予算を今年度は使う予定だが、どんなことに多く使っているのだろうか？

↳（生徒の反応）・除染作業、道路の修復、高速道路の建設、田園（町内の飲食店）の建設

↓

（説明）1番多いのは災害公営住宅や津波復興拠点の整備などの土木費に約220億、次に災害廃棄物（がれき）処理などの衛生費に約190億円

↳ ・「あの夜でも明るい建物か！」（沿岸部にある瓦礫処理のための施設のこと）

・がれき処理にはお金がかかるとは思っていたけど、ここまでとは思わなかった。

・山元町の予算を1万円に置き換えると、次のような分け方になる。これを見て感じた事を書こう。

土木費	4386 円	災害復旧費	79 円
衛生費	3496 円	消防費	51 円
総務費	803 円	商工費	110 円
農林水産費	599 円	議会費	19 円
民生費	255 円	教育費	91 円
公債費	111 円		

（生徒の反応）・衛生費の災害廃棄物処理事業は、毎年ペースを決めて使うことで、他にお金を回した方が良くと思う。

・農林水産費にもっと使っても良いと思う

・土木費はこれでも足りない。公営住宅の建設をもっと優先してほしい



「あなたなら、この予算をどう分けますか？」（次回作業）

（説明）平成 25 年度の山元町予算は 560 億円。それに対して、地方交付税など税金でまかなえるのは 20%にも満たない。町税の割合は 8 億 8000 万しかない（約 1, 5%）

↳ （生徒の反応）・山元町に住む人や、訪れる人が増えればお金もたくさん？

・予算は 10 倍以上になったのに税収は減ってる！

・これじゃ町に必要なものが作れない？ etc

・では、震災以降の山元町の課題とは何だろうか？

（生徒の反応）・税収が少なくなった。人口が減ったから。

・人がいないと復興に関わる人も減るし、お金もない。

・併設されてる小学校もあるし、住宅の問題などの他にも、教育の面であったり、考えればキリがない。 etc



山元町の課題を解決するために、あなたなら限られた税収(予算)をどう使うか？

(3)実践授業2「山元町のお金の使い道を考えよう」

・山元町の予算を1万円に置き換えたとして、あなたならどのように分けますか？

土木費		災害復旧費	
衛生費		消防費	
総務費		商工費	
農林水産費		議会費	
民生費		教育費	
公債費			

(生徒の反応)・復興を優先させるために土木費と災害復旧費にもっと振り分けて、落ち着いたら他のことにお金をまわしたほうが良いと思う。

- ・交通面を整えるため(駅など)に土木費を多くし、町に訪れる人を増やしたい
- ・新しく道の駅やサービスエリアを作るために土木費を多くし、そこで特産物売るために農林水産費を高くした。
- ・教育費を充実させれば、人口増加に繋がると思う
- ・町を発展させることで人口減少を抑えられると思う。だから商工費や農林水産費に充ててみた。 etc

・これらの項目や使い道の他に、何に税金を使っていった方が良いと思いますか？

(生徒の反応)・特産物を整備するのもいいけど、町独自の新しい魅力を作るもの良いと思う

- ・何に使うのかというのも大切だけど、無駄なものに使わないことも大切だと思う
- ・ゴミが少なく、夜も静かな山元町の環境の良さをなくさないように、環境の整備に使ってほしい
- ・自分の親が「スーパーが無くて大変」と言っていたので、そういう施設も必要だと思う。
- ・駅の復旧
- ・何かのイベントを開く
- ・国道6号線沿いに建物をたくさん建てて、仕事も増やす
- ・道の駅
- ・若い世代のために、商業施設を優先させるのもありだと思う。
- ・震災の資料を展示する

(4)実践授業3「まとめ」

・莫大な予算が必要な上、税収でまかなえる部分が少ないという今の山元町の状況を今回学び、どのようなことを感じましたか



- (生徒の反応)・将来この町の役場職員になりたいと思っていたが、町の問題は想像以上に大きかった。より多くの税収を得るためにも、まず商業施設が出来てもいいのかなと思う。
- ・大人になっても山元町にいた方が良いと感じた。
 - ・人口が減ることが1番の問題だと思うので、まず素敵な町にして多くの人を呼び込むことが大事だと思う。
 - ・使い道も大事だが、コストの削減を！
 - ・がれき処理や除染作業は私たちには出来ないが、山元町の良いところをたくさん知っているので、それを広めていきたいと思う。

「未来の山元町を考えよう」の授業を受けての感想を書いてください

(後述で抜粋)

(5)事後意識調査「授業後を振り返って」

1 「未来の山元町を考えよう」の授業の前と後では、税に対するイメージは変わりましたか？

変わった…24

少し変わった…41

変わらない…15

2 1で変わった・少し変わった人は、どのように変わりましたか？

- ・税の大切さ…31
- ・山元町と税の関係性…27
- ・税の今後を考えなければならないこと…9
- etc

3 1で変わらなかった人は、税に対してどのようなイメージを持っていますか？

- ・なくてはならないもの…6
- ・国が使うもの…2
- ・国民の義務…2
- ・生活を豊かにするもの…1
- ・無回答…4

4 今の山元町は、税金(予算)をどのように使った方が良いと思いますか。(1人3つまで回答可)

- ・ 災害公営住宅や集団移転…53→63
- ・ 瓦礫処理や除染作業…57→59
- ・ 被災した児童・生徒への支援…38→17
- ・ 農業・漁業の整備…34→52
- ・ 体育館や図書館などの建設…16→3
- ・ 大型ショッピングモールなどお店の建設…10→13
- ・ その他…7 (駅5、土地の安全確認2)

5 「未来の山元町を考えよう」の授業で1番印象に残っている事は何ですか？

- ・ 山元町の予算の使い道…27
- ・ 町税の少なさ…25
- ・ 山元町の予算を一万円に置き換えて考えること…16
- ・ 山元町の現状…6
- ・ 人口の減少…3
- ・ 復興のこと…1
- ・ 税金によって助けられること…1
- ・ 借金があること…1

「未来の山元町を考えよう」の授業を受けての感想(抜粋)

この授業をして、山元町のお金の現状や復興の難しさ、税金の大切など、色々なことを学びました。

私はこれまで、山元町が「更にお金をばらばらにしているお金はほとんどが山元町民の税金でまかなわれている」と思っていたので、20%という数値に感動しました。

山元町が「着実に復興に向かっていっているのは山元町長さんや、たくさんの方の努力があることだ」と実感しました。私もこれから山元町の復興に貢献したいです。

今までは復興が進まないことについて不安や不満しか
感じることばかりでしたが、町民たちの税金だけでは
どうにもならない。現在の山元町の現状を
知るところは、むしろ役場の皆さんに頑張ってもらいたい、
という思いもでてきました。

私たち自身も、復興や町づくりに向けて
できることをやってみよう。

山元町長や役場を働いている人は大変な仕事だと思った。
税金の使い道について、どんな風に分配してか、金銭が納税するということ
はないと思った。被災した人は民生費や、復興にお金をかけたいと思うが、
被害をうけていない人は、町の発展のためにお金をかけたいと思っている
だろうし、そんなバラバラな思いをまとめるというのはすごいと思った。

今は、中学生だから、町には何もできないけど、
地域交流や、おじいちゃん、おばあちゃんを元気づけるなど、
町に住んでいる人のためには何かできると思う。ゴミ拾いで、環境をよこしたり、
自分にできることを探して、それを大切にしたい。

将来の山元町を考えると責任を感じた公民の瞬間でした。

山元町復興！ といっているものの、実際はかなり難しい
状況にあるのだとわかりました。

復興のためには、それなりのお金が必要になるのに、
税金は人も少ないし、全然集まらないから大変だと思いました。

これから復興するのに、もっと山元町を活気のある町にして、
人もたくさん集まる町にしなければいけないと思います。

今、このように大変な状況の中、また何もできない自分は、
少し情けない気がします。将来、山元町のためになることか
何が山には、進んで行えるようになりたいです。

8 まとめと今後の課題

今回、租税教育の中の一環として「未来の山元町を考えよう」という授業を行って、予想以上の効果を得ることが出来た。自分の住んでいる町の経済事情を中心とした実態を学ぶことで、子どもたちは「今の山元町」について深く考えることができたと思う。

東日本大震災によって、町は変わり果てた姿になった。そのような町の姿を見てきた子どもたちに、復興に必要な不可欠な予算やそれをまかなう「税」などの経済的実態について、身近な資料である広報誌を提示したことで、多くの関心を引きつける事が出来た。

授業後行ったアンケートの結果では、質問1では80人のうち65人が、税に対するイメージが変わったと回答した。理由の多くは、震災以降10倍以上必要になった町の予算に対して、人口流出による町税の減少の様子から「税を納めることは大切」というものへの変化であった。それに関連して、町の予算に対して税でまかなえる部分が少ないことへの驚きも多く記入されていた。税に対するイメージが変わらなかった生徒も、なくてはならないものであるというイメージを、今回の授業を通して改めて感じたことが窺えた。

質問4では事前調査と同様の内容を聞いた。以前と同様に公営住宅の建設や除染作業を重視すべきという生徒が多かったが、「人口流出という課題の解決」を模索する中で、「町が発展するには」ということを考えた生徒も多かった。結果、町の特産物であるイチゴ、リンゴ、ほっきなどを売り出していくために、農林水産費の割合を多くする生徒が増え、公共施設の建設などを優先する生徒が減るという変化が見られた。

質問5では、多くの生徒が山元町の予算の使い道について印象に残っていると回答し、それに関連して町税の少なさ・1万円を自分の考えで振り分けることに関心を寄せた様子が見られた。回答全体をみると、「山元町の実態」を知ることを通して「限られた税をどう使うか」考えるきっかけとなり、税への関心を深める事に繋がったと思う。

授業後の感想では、多くの生徒が沢山の感想を書いてくれた。「税などの事情も含めた山元町の今後を考えなければいけない」、「復興の為にこれほどの予算が必要だということに驚いた」、「山元町に人が来るにはどうすればいいか考えなければいけないと感じた」と感じてくれた生徒が大変多く、結果として復興への町作りの人材の一人としての自覚を持つきっかけになったと言えるだろう。

今後の課題は、「こういうことにお金をかけた方がいい」という個人の考えや判断を尊重すると同時に、町の実態を多角的に捉えさせ、考えが偏らないようにする必要がある、ということである。一人一人が町作りへの意見を持てるきっかけになったが、未だ町には多くの人々が住み、それぞれがそれぞれの考えを持ち、復興を進めていかなければならないことを改めて説明する必要がある。

また、町の実態や経済的実態を学び、自分の考えを持つ段階までが今回の授業であるので、今後「中学生としての自分が今できることは何か」というような考える力を発展させるような機会を作るのが望ましく、そのような機会と「租税」を結びつける方法も追求していかなければならないと考える。

